

『年頭所感』

理事長 下村 卓司

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナ渦の中で始まりましたが、今年は「ウィズコロナ」という概念も徐々に拡がりつつあり、少しずつですが落ち着きを取り戻す中新しい年を迎えました。今年こそはコロナも終息の方向に向かい、世間が平常の生活を取り戻せるように願います。

さて、我が法人は、障がい者支援施設「ゆらくの里」の増改築が昨年11月に竣工し、年末に無事引越しを終えました。新しい環境で迎える新年は、ご利用者の皆様、そして職員にとって感慨深いものがございました。新棟ができたことによりご利用者個々の専有面積が増え、また食事や活動の際の空間が広がることで他のご利用者への過剰な干渉も少なくなり、以前よりゆったりと落ち着いて過ごされているように感じております。

一方、支援する職員もご利用者が落ち着かれて生活されるようになったことで、従来よりも支援に集中でき、支援の質が向上するのではないかと考えております。

つまり、ご利用者や職員にとって住環境の改善は不可欠であったのだと痛感しております。これから既存棟「いぶき」、「みのり」の改築も行う予定ですが、以下のスローガンのもと、ハード面及びソフト面の改革を行って参ります。

そのスローガンは「我が子の人生を託したくなる法人を目指す」です。

「我が子がこの施設を利用するならば?」、「我が子がこのサービスを利用するならば?」という視点でこれまでの取り組みを再度見つめ直し、改善すべき点は改善し、新しく取り入れる必要があるものは積極的に取り入れていく所存です。

「変化と考動」を法人方針に掲げて二年目となる今年度も残すところ三か月となり、これまでの取り組みを検証している最中ですが、来年度も引き続き方針のもと、職員一人一人がこれまでの固定観念にとらわれず、よりよい支援のため考え抜いて行動し、ご利用者支援に良い変化を起こすという気持ちで取り組んで参ります。

今後も更なる支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和4年新年のご挨拶とさせていただきます。



『ゆらくの里』新棟竣工式

施設入所支援課 管理課長 中島 正寛

爽やかな秋空の下、衆議院議員 高市様秘書 木下様、奈良県県議会議員 乾様、香芝市長 福岡様はじめ 40 余名のご来賓の皆様をお迎えし、『障害者支援施設ゆらくの里』新棟の竣工式を執り行いました。ご来賓の方々からお祝いの言葉を賜り、法人職員から名称を募った新棟の名称「なごみ」が発表された際は、感慨もひとしおでした。



思い返せば一昨年 9 月、既設のプレハブ解体から始まった改築工事は、日を迫うごとに取り壊しが進み、いぶき寮の様子を変えて行きました。その姿に、涙を流されたご利用者もおられました。また、解体中は館内にも大きな音が響いたり、停電や断水の発生、年末にはコロナウイルスの第 3 波という猛威の中、帰省を控えられる方もたくさんおられたりと辛い日々を過ごして頂くことになってしまいました。

福岡市長による祝辞

年度が変わり 7 月の竣工を目指して進んでいた矢先、工事が止まってしまうというアクシデントが発生しました。6 月に工事は再開しましたが、そこから先の工期はご利用者の住環境エリアの減少といったこれまで以上に生活面に影響が出る時期となっていました。また、それに合わせる形で、ご利用者には職員と一緒になごみ完成後の動きを練習して頂く日々が始まりました。皆様には、本当に大変な 1 年 2 カ月であったと思っております。

式典は粛々と進み、場所をなごみ前に移してご来賓の方々に見守られる中でテープカットとご参列の皆様との記念撮影を執り行いました。閉式後は、ご来賓の皆様になごみ棟を見学していただき、その中で沢山の期待が込められた感想が聞こえてきました。その想いにお応えできるように、職員一丸となってこれまで以上にお一人お一人に寄り添った支援をしていきたいと考えております。今後ともご支援の程、よろしくお願ひします。

(上)テープカット

(下)なごみ棟の外観



なごみ棟前での記念撮影



グループホームのあ 『サテライト型グループホームを始めました！』

グループホームのあ 課長補佐 松下 卓永

「住み慣れた地域で、暮らし続けたい」というニーズを満たしていくため、“グループホームのあ”がある近隣でアパートを借り、サテライト型グループホームを開設しました。

サテライト型グループホームとは、「将来一人暮らしを目指している」や「一人暮らしを望んでいるが、なかなか一歩が踏み出せない」「集団での生活は苦手」など期待や不安を抱えている方々が、経験の機会・場として活用できるサービスです。身に付けたい生活習慣など個別サポートを受けながら経験を積み重ね、一人暮らしの実現に向けて自信と生活力を身につけてもらいます。

新しく入居された方は、数十年間一人暮らしをしてきましたが、生活習慣が崩れ継続が困難となっていました。それでも、ご本人の一人暮らしを続けたい思いとご家族の応援があり、サテライト型グループホームの利用につながりました。「再び一人暮らしする」を掲げ、掃除・洗濯・栄養管理などの生活習慣を見直し、意識を持って改善に取り組んでおられます。合わせて新たな生活スキルが身につけられるよう毎日励んでおられます。

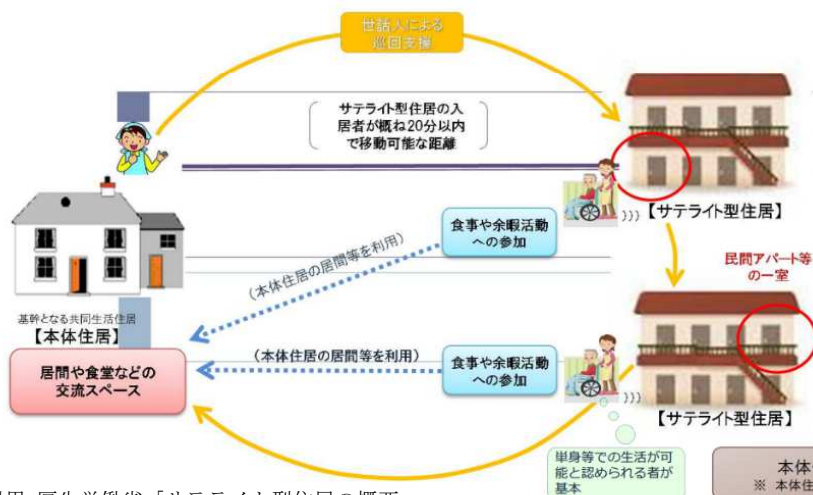
入居者の描く将来像や地域生活の継続、地域生活を望んでいる多くの方々のニーズに寄り添い、地域での暮らしが実現・充実するよう、法人理念である「人として尊厳ある暮らしと、その人らしくその人なりの、人生を支え続ける」を追求しサポートを実践していきます。

サテライト型住居の概要

- 地域生活への移行を目指している障害者や現にグループホームを利用している障害者の中には、共同住居よりも**単身での生活を望む人がいる**
- 少人数の事業所が経営安定化の観点から、定員を増やそうとしても**近隣に入居人数など条件にあった物件がなく、また、物件が見つかったとしても界壁の設置など大規模改修が必要となるケースも少なくない**との声がある。

共同生活を営むというグループホームの趣旨を踏まえつつ、1人で暮らしたいというニーズにも応え、地域における多様な住まいの場を増やしていく観点から、グループホームの新たな支援形態の1つとして本体住居との密接な連携（入居者間の交流が可能）を前提として

ユニットなど一定の設備基準を緩和した1人暮らしに近い形態のサテライト型住居の仕組みを創設



(サテライト型住居を設置する場合の設備基準)

	本体住居	サテライト型住居
共同生活住居の入居定員	原則、2人以上10人以下 ※	1人
ユニット(居室を除く)の設備	居間、食堂等の利用者が相互に交流を図ることができる設備	本体住居の設備を利用
ユニットの入居定員	2人以上10人以下	—
設備	・日常生活を営む上で必要な設備 ・サテライト型住居の利用者から適切に通報を受けられることができる通信機器(携帯電話可)	
居室の面積	収納設備を除き7.43㎡	

(※) サテライト型住居の入居定員は本体住居の入居定員には含まないものとする(事業所の利用定員には含む)。

本体住居、サテライト型住居(※)のいずれも事業者が確保

※ 本体住居につき、2か所(本体住居の入居者が4人以下の場合は1か所)が上限

引用 厚生労働省「サテライト型住居の概要」

アート活動「アトリエ それいゆ」便り

絵画サークル・アトリエそれいゆ
岡橋 三起子

コロナ感染者数も少なくなり、ワクチン接種の効果が徐々に現れはじめました。オミクロン株の流行が懸念されている状況の中、現在アトリエ活動再開に向けて、開催方法などを検討中です。そういった状況でも、今回も様々なイベントに参加する事ができました。この秋の取り組みの一端をご紹介します。

■ 第33回Tシャツアート展・wind 賞受賞 (NPO 砂浜美術館 主催)

コロナ禍で開催が危ぶまれた作品展ですが、今年も規模を縮小して開催され、アトリエそれいゆ・小山加尉さんの作品「国旗」が「wind 賞」を受賞しました！！審査員は絵本作家の鈴木まもるさん。応募総数 903 点中、10 点の内の 1 つに選ばれました。現在、小山さんはご自宅で作成に励んでおられ、今回の受賞は当法人で作家活動を始めてから初受賞です。念願の「受賞」という目標を達成する事ができました。

ちょうど開催時期にコロナ感染者数が激減し、会場に足を運んだ方々は、砂浜一面に広がるTシャツや様々なイベントを満喫されたようです。今年も参加する事ができ、ホッとしています。来年こそ、感染の不安なく開催される事を願います。



小山さん「国旗」

■ 第33回Tシャツアート展・wind 賞」お祝いパーティー開催

小山加尉さんの「wind 賞」受賞につき、2021 年 12 月 10 日(金)、ワークサポートセンター今人にてお祝いパーティーが開催されました。パーティーには小山さんのご両親も出席され、お祝いムード一色に包まれました。

小山さんもはじめは緊張した面持ちでしたが、受賞したTシャツを皆さんに披露すると、周囲から感嘆の声があがり、嬉しさがこみ上げたようです。みんなでジュースの乾杯、そして記念撮影をしました。

コロナ禍において、様々なイベントが今もなお縮小気味ですが、今回、みんなで心に残るお祝いができて本当に良かったです。小山さんに再び制作意欲が湧いてきたようです。次回の作品も楽しみにしています。このような素晴らしい機会をいただき、ありがとうございます！！



小山さん記念撮影

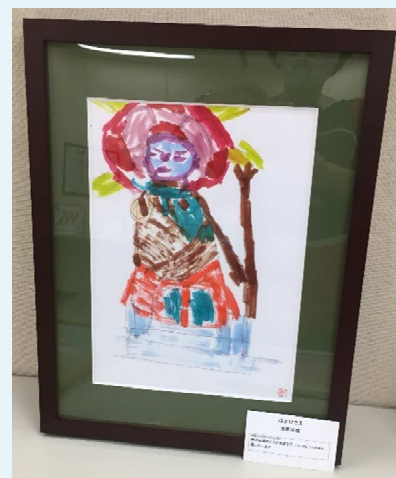


受賞パーティー

■ プライベート美術館 開催

(奈良県障害者大芸術祭実行委員会・奈良県大芸術祭実行委員会・奈良県 主催)

奈良県の秋の風物詩「プライベート美術館」が、今年も奈良県下のカフェやショップ、社寺などを舞台に開催されました。「プライベート美術館」は、公募によって集まった奈良県内の障がいのある人のアート作品を、日常の中で楽しむプロジェクトで、今回で11回目を迎えました。今年もアトリエそれいゆの皆さんは作品を出展し、また、当法人 natural café Monstera も「プライベート美術館」の展示に参加しました。私は毎年、カフェでの飲食を楽しみつつ、作品を鑑賞し、作品を前に語らい、普通の美術館では体験できない楽しみ方を経験しています。障害のある人の作品を介して、皆さんがほっこりと幸せな気持ちになるひとときが、これからも続いていきますように。



吉原さん「ほとけさま」

■ ビッグ幡 in 東大寺 開催

(奈良県障害者大芸術祭実行委員会・奈良県大芸術祭実行委員会・奈良県 主催、東大寺 協力)

「幡(ばん)」は、寺院の重要な法要の際に使われる「旗」で、仏や寺院を美しく飾り、称える為のものです。人々の平和を祈り、魔よけの意味があると言われています。

今年も東大寺にて障害のある人の絵画作品をデザインした8つの幡が掲揚され、ゆっくりと風に舞う美しい光景が現れました。アトリエそれいゆからは4名の方が参加され、1名の方の作品が「幡」のデザインに採用されました。また、イオンモール大和郡山のイオンホールにて「ビッグ幡 in 東大寺」の原画展が開催され、公募により集まった364点の作品が一堂に展示されました。

私は今年も風にたなびく幡をゆっくり眺め、大仏様に感謝を捧げるべく東大寺に向かいました。コロナ感染者数が少なくなっている今日、東大寺は以前の賑わいを取り戻しつつある印象を受けました。問題が収束した暁には、また東大寺を訪れたいです。来年も、大仏様に感謝を捧げに東大寺に行けるように願っています。



(左)「ビッグ幡 in 東大寺」展示風景

(右)「ビッグ幡 in 東大寺」

イオンモールでの展示風景

児童部門『クリスマスパーティー』

12月11日

ゆらくデイ・はぐらいぶの合同活動として『クリスマスパーティー』を開催しました。

クリスマスカード作りでは、サンタさんの顔を作ったり、メッセージを書いたりして、とてもかわいいオリジナルのカードが完成！クリスマスケーキも自分たちで生クリームやトッピングのチョコなどをのせて作ったものを、美味しそうにペロリと食べてくれていました。他にも、宝探しゲームやサンタさんとリモートで簡単なゲームをするなど、どの活動も大盛り上がり☆

サプライズでサンタさんからプレゼントをたくさん貰い、子どもたちのたくさん笑顔を見ることが出来ました。



ゆらくの里

『新棟竣工パーティー＆新年会』 1月5日

ゆらくの里『「なごみ棟」のご利用者向け竣工パーティー＆新年会』を開催しました。

午前中は「餅つき大会」を開催。ゆらくの里ご利用者だけでなく、放課後等デイサービスや通所事業所をご利用頂いている方もたくさん参加してくれました。それぞれ餅つきを体験していただき、つくたてのお餅を美味しく食べていました。午後からは2会場に分かれて「なごみ棟竣工パーティー」と「新年会」を開催。ジュースのシャンパンタワーや、いわき舞踊会によるよさこい演舞など、皆んなで大盛り上がり。新年早々、とても楽しい一日になりました！



ゆらくの里『成人式』 1月10日

成人を迎えられたお二人のご利用者の『成人式』を、ゆらくの里で開催しました。

当日はご家族様もご招待し、厨房スタッフがこの日のためにしっかりと準備した懐石料理を召し上がっていただきました。また記念として事前にスタジオで撮影した写真をプレゼントさせていただきました。

お二人の一生に一度の大イベントを、ご本人やご家族様にとっても喜んでいただけるものにできて本当に良かったです。



新入職員紹介

ご利用者のために精いっぱい頑張ります
どうぞよろしくお願いいたします



のむら あきひろ
野村 明弘 (9月1日入職)
ゆらくの里 正職員

9月よりゆらくの里に入職しお世話になっております。ご利用者の安心安全な生活を送れるよう支援させていただきます。右も左もわからない事が多いですが、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。



とみもり ともこ
富森 智子 (6月15日入職)
今人 パート

7月より今人で働かせて頂いております富森です。初めての福祉の仕事ですが、スタッフの方々に教えて頂き日々勉強中です。ご利用者に少しでもお役に立てるように頑張ります。宜しくお願い致します。よろしくお願いします。



第29回 白ゆり会 寄贈

香芝市のボランティア団体『白ゆり会』様より、今年も雑巾を寄贈いただきました。

『白ゆり会』様からの寄贈はこれで29回目となります。寄贈して頂いた雑巾は、法人各事業での環境整備の際に用いることに加え、ご利用者の清掃活動時にも使用をさせて頂いています。タオルを提供して下さいました方、一針一針心を込めて丁寧に縫って下さった方、皆様のお心遣いに感謝致します。これからもご利用者のためにお力を貸していただけますよう、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。



清水基金様より『いわき舞踊会』の衣装等を助成いただきました☆

社会福祉法人清水基金様の「文化芸術活動特別助成事業」にて、当法人のよさこいチーム『いわき舞踊会』の新しい衣装やＴシャツ・大旗・パーランクー（太鼓）を助成いただきました。大切に使用させていただきます。本当にありがとうございました！

また、その衣装等を使用して明日香村稲渕でオリジナル楽曲「ひかりのたみ」を踊りました。その様子を YouTube で公開しておりますので、ぜひご覧ください。



YouTube
『いわき舞踊会』
動画公開中!!



こちらのQRコードより
ご覧いただけます。
☆他の動画もあるので、
ぜひ一緒にご覧ください。

《ありがとうございました》

多くの方よりご寄附をいただきました。皆様方からの寄附を施設整備など、有効に活用し、ご利用者のために使用させていただきます。

《個人》

津田貞男、池上治人、三島茂子、久世博子、宇田孝子、堀謙輔、谷口融正、川北司朗、永田恵美子

《業者ほか》

阪本石油(株)、大良水産(株)、船木燃料店、(株)田原建設、山口ガス商会、奈良ヤクルト販売(株)、(株)ステップワン

(順不同・敬称略)

《賛助会員募集》

引き続き賛助会員を募集いたします。同封の振込用紙にて会費のお振込を是非お願い申し上げます。

《編集後記》

明けましておめでとうございます。今年の干支は「壬寅（みづえのとら）」です。壬寅は、厳しい冬を超えて新たな成長に向けて動き出す段階に入る年と言われております。本年も昨年同様、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

発 行： 社会福祉法人 以和貴会
住 所： 〒639-0261
奈良県香芝市尼寺6 1 6 番地
編集責任者：理事長 下村 卓司
M a i l： office@yuraku.or.jp
発 行 月： 令和4年1月